

英語語彙学習 CALL *Word-Synthesizer* の開発とその効果の検証

Developing and Evaluating English Vocabulary CALL Software, *Word-Synthesizer*

摂南大学 吉田信介

摂南大学 吉田晴世

関西大学 竹内 理

同志社女子大学短期大学部 佐伯林規江

同志社女子大学短期大学部 三根 浩

はじめに

英語教育において語彙力は読解の重要な構成要素の一つであるが、日本人学習者の英語の語彙力は不足しており（認識語彙上限：約 7000 語）（竹蓋、1982）、英語母国語話者の約 20000 語（大学生）（高梨、1987）と比べて少なく、実際に英文を読む際、未習語数が多くなるほど理解度が落ちる傾向にある。特にインターネット等が普及した情報ネットワーク社会においては、様々な分野において短時間に大量の英文を処理していく必要があるが、語彙力の不足はそのまま情報収集能力の不足を意味する。

英語語彙の大半はラテン・ギリシャ語系が占めるが（安井、1973）、その学習には接頭辞、接尾辞、語根に関する構造原理の知識を持つことが有益であると考えられる。これは、具体的操作による機械的記憶の段階から、形式的操作に基づく論理的記憶が優勢になる段階となる大学生の語彙力向上には特に有効であろう。そこで、語彙数増大を直前目標とせず、単語の質的類推力を育成するために、共通に識別される構造的な類似性や語意形成上の類似点に親しませることが重要である。構造原理の理解の促進には、コンピュータ支援によるインタラクティブな環境により、認知的スキーマを活用することが効果的であるが、これまでにこのような目的で開発されたソフトはほとんど見あたらない（吉田、他 1990）。

研究の目的

英語の語彙を語形成 [接頭辞+語根+接尾辞](e.g. transportation = trans+port+ation) から論理的、合理的に、しかもマルチメディア環境に対応させることによる学習の動機付けに配慮した語彙学習ソフトを開発・実践し、その効果を検証することを目的とする。

ソフトの特色

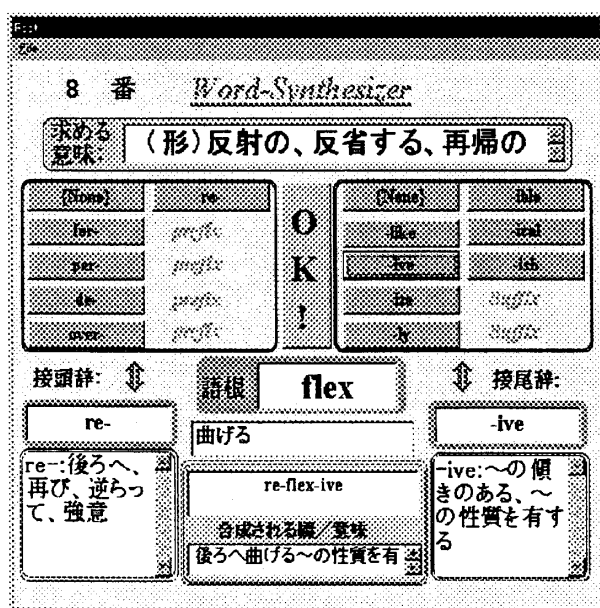
①積極的反応：設問、ヒント、正誤状況、正解、制限時間、効果音、画像をリアルタイムに提示することにより、コンピュータを介してインタラクティブな形で学習を進める。②フィードバック：誤答時のヒントを、文字、音声でリアルタイムに提供してフィードバックを充実させ、記憶の保持を促す。同時に、成績の即時表示で、学習の動機づけを高める。③自己ペース：能力に応じた制限時間、難易度、カテゴリー、レッスンの選択により、学習の個別化を促進する。④GUI の導入：キーボード操作を少なくし、情報へのスムーズなアクセスと、単純な入力ミスに基づく誤答の発生を回避する。

英語授業での実践と学習効果

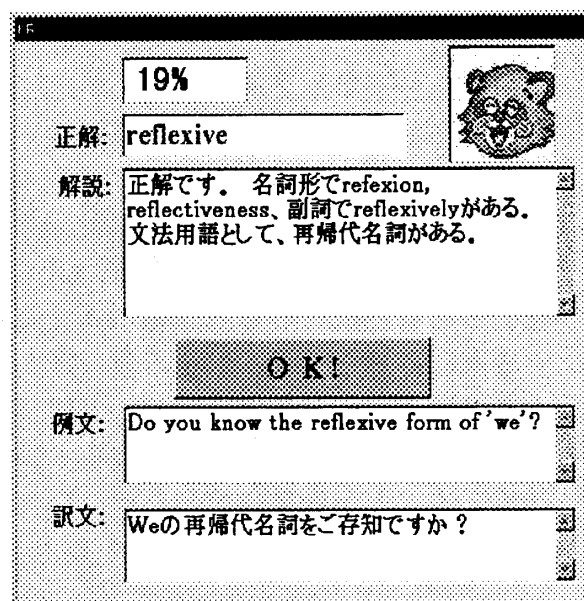
1998 年 4 月より約 100 名の大学生を対象に、開発されたソフトを実施し、これを

9月12日(土) 研究発表3 第2室(R202)

利用したグループと、これを利用しないグループの学習効果の比較を行う。前後テストには、ランダムに選んだ語彙について、それらの 1)意味を問う設問 50 題と、2)語根と接辞を識別させ、それらの意味を書かせる設問 50 題を用いる。また、ソフトの操作性に関する質問紙を作成・実施し、主観的な評価を行う。できる限り外的条件を統制するため、4～5 月、5～6 月の 2 回にわたり同一の実験を繰り返す予定である。この測定より得られた客観データは、7～8 月に分析を行い、9～10 月におこなわれる最終的な学習項目の確定に役立てる。本発表では、4～6 月に得られた客観データの結果と、質問紙調査から得られた主観的データをもとに形成的評価を中心に論じる。



【図 1 問題画面】



【図 2 フィードバック画面】

参考文献

- Bauer, Laurie (1989) *English Word-formation*, London : Cambridge University Press.
 Gairns, R. and S. Redman (1986) *Working with Words*, London : Cambridge University Press.
 今里智晃、他 (1987) 『英語の辞書と語源』 東京 : 大修館.
 小西友七、他 (1992) 『ジーニアス英和辞典』 東京 : 大修館.
 並木崇康 (1985) 『語形成』 東京 : 大修館.
 成田義光、他 (1973) 『発音・綴り・語形成』 東京 : 研究社.
 Richards, J.C. and T.S. Rogers (1986) *Approaches and Methods in Language Teaching*, London : Cambridge University Press.
 Rivers, W. M. and M.S. Temperley (1978) *A Practical Guide to the Teaching of English as a second or Foreign Language*, Oxford University Press.
 高梨庸雄、他 (1987) 『英語リーディング指導の基礎』 東京 : 研究社.
 竹蓋幸生 (1982) 『日本人英語の科学』 東京 : 研究社.
 安井 稔 (1973) 『英語教育の中の英語学』 東京 : 大修館.
 吉田信介、他(1990) 「CAI 語彙学習ソフトの開発」 『紀要 19』 中部地区英語教育学会, pp.31-35